

商業区域も併設される。

駅は2020年に完成し、市場前は、駅入り口となる円

形の大型吹き抜けのある近代的広場に生まれ変わる予定だ。

## 【ベトナム一運輸】

# 物流サービス発展行動計画を承認＝首相

ベトナムのグエン・スアン・フック首相がこのほど、2025年までの物流サービスの発展と競争力向上行動計画を承認した。16日付ダウトゥ電子版が報じた。

これによれば、今後物流サービスの成長速度を年間15～20%とし、25年には国内総生産(GDP)に同分野が占める割合を8～10%とし、物流サービスの外注率を50～60%に高める。約160カ国を対象とする物流効率指数(LPI)ランキングで上位50カ国入りし、ベトナムが

域内の物流センターの一つとなることを目指す。

国は目標達成に向け、物流サービスについて、法整備 インフラ整備 企業競争力の向上とサービスの質向上 市場拡大 人材養成 などを進める。インフラ整備については、ハノイ、ホーチミン市を第1類物流センター、ランソン、ラオカイ、ハイフォン、ダナン、クイニョン、カントーなどを第2類物流センターと規定して、建設投資の誘致を進める。

## 【ベトナム一公益】

# 南部で汚泥処理、日本ミクニヤが海外初事業

環境コンサルティングなどを手掛ける日本ミクニヤ(川崎市)は、南部カントー市で有機廃棄物処理の実証実験に入った。乾燥と発酵により汚泥や生ゴミを24時間以内に95%減容化する特許技術を活用し、実験後はベトナム国内の下水処理施設や工業団地、リゾート地のホテルなどに売り込みを図る。日本ミクニヤにとっては初の海外事業となる。

同社の減容化装置「ミシマックス」は、内部で汚泥や生ゴミとチップをかき混ぜて酸素を送り込んで微生物を活性化させる。チップ内で増殖した微生物は廃棄物を発酵させて気化させる。また内部を約60度の高温に保ち水分も蒸発させて重量・容量ともに大幅に小さくさせる仕組みだ。

ミシマックスは日本の一部自治体の廃棄物処理場などで導入されているほか、福島第1原子力発電所の除染で発生する有機性廃棄物処理にも使用実績がある。今回の実証事業も、県内に拠点がある環境関連企業の海外進出を支援している広島県の助成を受けて行われている。

カントー市では1日の処理能力が50キロの小型機をゴミ収集場に設置し、4月中旬までかけて実証を行い、ベトナムで調達可能なチップや現地の気象条件の下でも微生物が機能するか検証する。実験を開始して2週間程度になるが徳岡誠人執行役員は、「現在のところ順調に減容化できている」と手応えを感じている。

経済発展によりカントー市でも汚泥や生ゴミが増加しているが、現在はほとんどが埋め立てられており、埋

め立てスペースの確保が課題となっている。また2015年の法改正で汚泥が危険物に指定され、業者による汚泥の引き取り費用が数倍に跳ね上がったため、工業団地の運営事業主などに大きな負担となっているという。

ミシマックスは1日の処理能力が1万5,000キロの大型モデルであれば数千万円するが、敷地内で減容化でき、長期的に処理費用の削減につながる長所をアピールしていく方針だ。



日本ミクニヤはカントー市で有機廃棄物処理の実証実験を実施している(同社提供)

**ASEAN一覽** FTA・EPA編

**工業団地&インフラMAP**

ダウンロードは  
こちら